

令和6年度 第3回伊那市立中学校部活動の地域移行協議会 会議録

開催日時 令和7年2月19日（木） 午後6時30分から8時まで

場所 伊那市役所 5階 501・502 会議室

出席者 委員26名、事務局等15名

会議事項（進行：三澤教育次長）

- 1 開会のことば（伊藤副会長）
- 2 挨拶（福與教育長、松崎会長）
- 3 協議（松崎会長 進行）

（1）第2回協議会の協議事項の確認について

内容について確認

（意見等）

- ・ボランティアとして活動する場合、指導する場合、無償又は交通費等の実費という範囲でと書いてある。今現在先生方は、休日の部活については3時間従事して、県からお金が出ているが、引き続き県からお金が出るのか、それとも無償になるのか。無償でも良いという先生もいるかと思うが、異動して新しい先生が来たらどうするか。

→（事務局）基本的に自発的な活動になるので、指導員になる方への報酬は各クラブで決める。県の補助はないと考えている。後ほど説明します。地域クラブの運営について、後ほど提案させていただく場面があるので、その時お話したい。

（2）中学校部活動の顧問等へのアンケートから見てきた課題と対応について

事務局から資料に沿って説明

（意見等）

- ・土日に活動する地域クラブは、独自のカリキュラムを作ってよいのか。それとも学校と連携していくのか。

→令和8年度末までは、従来の学校部活動は行われる。それ以前にも、徐々に移行できるところから移行をしていくということになるので、その場合の学校部活動は、平日の4日間のことだけになる。休日の活動というのは、学校から切り離されるというのが、最初の文科省の考え方であったが、変わってきている。

→中学校と連携を取りながらという言葉が入ってきているので、全く無関係ではな

いという形に変わってきた印象がある。

- ・アンケート結果も踏まえて、中学校の部活動顧問との懇談会及び関係団体連絡会を行うとある。必要だと思うが、該当になる保護者は対象になるのか。

→保護者も対象としたい。

(3) 学校部活動の地域移行（展開）について

事務局から資料に沿って説明

(各学校の現状について)

(伊那中から（ソフトボール部ほか）)

- ・地域クラブは自主的なものだという話があった。この過渡期において、部活と地域クラブが混在する時期があらうかと思う。
- ・例えば中体連の大会に向けた練習試合は、休日に行う。練習は平日にやって、練習試合休日に他校へ出かけて行って行う場合、学校部活動ではないという整理になる。保護者への説明に苦慮すると思う。
- ・部活動の指導手当、引率業務の特殊勤務手当があるが、手当が県から出るのであれば、ボランティアでなく、学校部活動の手当をもらってやっていくように、並走していく形をとりたいのではないか。
- ・ソフトボールは中体連の大会がなくなってしまった。クラブチームのみの大会になったが、上位の大会である北信越大会は中体連の大会がある。こういった点も情報の中に入れ込んで、話題にしていきたい。
- ・剣道部は、地域移行ができる状況になっているが、なるべく学校施設が使えて、保護者負担が少ない方法で令和8年度末まで行きたいと考えている。
- ・令和8年度末から平日のみの部活になると読めるが、目指すとも書いてある。職員や保護者にどのように話していけばよいのか分からないところ。令和9年度以降は、平日のみになるのか、目指すだけで、休日の部活動が続く部分があってよいのか。
- ・保護者からは、不公平だという意見も出ている。地域クラブではお金が（余計に）かかり、学校部活動として残っているところでは、今までどおり保護者負担が少ない。これは不公平ではないかという意見があり、回答に苦慮している。市の方針を早々に決め、出してほしい。

(西箕輪中から（野球部）)

- ・野球部は、保護者が代表になり、総合型地域スポーツクラブに登録している。月2,000円の会費を集めて、主に消耗品や運営費にはできているとのこと。会場費は減免されているが、今後も減免の扱いは継続してほしい意向である。
- ・活動内容として、おおむねの練習は部活動でやっているが、日曜日の練習をサポートしていて、そこには部活動の顧問は参加していない。また、練習試合等もク

ラブの方でやってくださっている。

- ・課題として、固定の指導者が確保できないという状況がある。小学校の方では、少年野球チームがあつて、固定のコーチがいるが、中学校ではそれができておらず、今後が心配である。

(春富中から(剣道部))

- ・西箕輪中と同じく、総合型地域スポーツクラブに登録した団体に活動している部活動がある。参加者は地域の小学生や、本校のそれぞれの部活動の部員であるが、他校から参加している場合もある。
- ・高校生も一緒に参加しており、中学校の部活動だけをやるためのクラブではないということになっている。
- ・指導しているのは、ほぼほぼ本校の職員ではあるが、登録するときに、職員が希望しなければ、その職員が指導することはない。
- ・PTAの中でも、活動を説明するが、職員の勤務時間外でもあるので、意思を尊重しており、御理解をいただきたいというお話をしている。
- ・活動費は集めているが、会場使用料は減免や学校の活動時間の中で行っている。
- ・伊那市総合型地域スポーツクラブに入っているものが、そのまま継続していけば、発展的になっていくと思う。指導者や会場のことは、少し吟味していく必要はある。

→それぞれ貴重な意見をありがとうございました。今後、事務局等で検討し、協議会へ提案させていただきたい。

(他の意見等)

- ・指導者の確保と運営費の補助が必要。保護者にメリットはないのか。県・市いずれも補助しないというのは説明にならない。上伊那教育会連絡協議会もある。調整してみても。
- ・メリットとして、専門以外の先生に教えてもらうより、専門の指導者に教えてもらうメリットがある(効果的な指導を受けられる)。苦し紛れの説明になるが。
- ・自身の子がスポ少をやっている。中学では部活にも入りたいと思っている。高校入試の内申、スポーツ推薦などはどうなっていくのか。

→手持ちの資料はないが、(部活でなくても)本人が頑張ったことを書くようにはなっている。

(4) 当面のスケジュールについて

事務局から資料に沿って説明

運動部は新人戦終了後、文化芸術は文化祭終了後に進めていきたい。

(意見等)

- ・運動部も例えば吹奏楽部も、大会等が続いていく。時期を切らない方がありがたい。

→スパッと切るわけではなく、目安として。顧問との懇談の中で、移行時期を相談していきたい。

- ・各学校に共有して進めてほしい。
- ・繰り返しにならないように、謝金、会場、条例など、まだ曖昧な部分がある。確定できるところは決めてほしい。

4 情報の共有、共通認識として

「学校部活動」と「地域クラブ」について

事務局から説明

これまで、部活動と地域クラブは別物として説明してきたが、「学校と連携して」という言葉が加わった。全く切り離されるということではなくなっている。

5 その他

(意見等)

- ・伊那中の保護者からの「不公平」とは、具体的にはどんなものか。

→(伊那中)地域クラブになると、受益者負担が求められる。学校部活動であれば、学校の予算で、例えば楽器、指導者への謝金、輸送費の補助などが賄われており、保護者から見ると不公平ではないかという意見である。

- ・「部活動の意義」が、平日の活動だけで達成できれば、無理に移行することはない。(例えば)運動量の不足であれば、既にある地域のクラブに所属して運動量やスキルを磨くという選択肢もあるのではないか。今土日活動している部活動をすべて地域へ移行するというのは、実質的に無理があるのではないかと思う。是非懇談会をする前に、一度学校内で必要性について精査しては。保護者に対しても、オーバーワークなどのリスクを伝えるなど共有が必要だと思う。

6 閉会